

## (20) 神経芽細胞腫マススクリーニング (沖縄県)

小 渡 有 明

沖縄県には、多くの離島があり、神経芽細胞腫マススクリーニングを実施するにあたって、離島における対処並びにその体制について検討することも一つの課題である。

そこで、今回は、那覇保健所管内の離島を中心にスクリーニングを実施した。

### 実 施 方 法

- 1) 母親向けのチラシ、濾紙、スポイド、尿をつけた濾紙を入れるビニール袋、送付用の封筒をセットにし、保健婦により、あらかじめ、母親に対して、指導、教育の上、このセットを渡し、乳幼児健診や乳幼児健康相談を利用して、各離島毎に尿をつけた濾紙を回収し、保健所に送付してもらうことにした。
- 2) 採尿した尿は、スポイドを用い、濾紙の決められた箇所、2箇所に尿をつける。
- 3) 採尿は、原則として、一乳児から、乳児期、3～4ヶ月、6～7ヶ月、9～10ヶ月、12～13ヶ月に行うことにした。
- 4) 検査はSpot法により行った。
- 5) 採尿後、検査までに要した時間について検討した。

### 結 果

- 1) 今回検査した件数は400件で、月令別にみると、3ヶ月、6ヶ月が最も多く、3ヶ月～7ヶ月が63.5%を占めた。
- 2) 再検を用いた件数は25件で、再検率は、6.3%であった。陽性は0であった。尚、検査不能が8件あり、これを含めると、再検率は8.3%になる。
- 3) 離島から個別に送付されてきた検体(濾紙)44件について、採尿後、検査までに要した日数は、最低1日、最高6日で、離島により多少差がみられるが、84%が3日以内に送付されてきている。

表1. 月令別検査数

月数	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	18	計
検査数	62	41	46	60	45	30	44	28	19	17	8	400

表2. 検査後の再検査数

検査数	再検査数	再検率	検査不能
400	25	6.3%	8(2%)

表3. 採尿後、検査までに要した日数

日数	1	2	3	4	5	6	計
件数	10	14	13	4	2	1	44

神経芽細胞腫検査セット

赤ちゃんが6か月になったら

しんけい が さいぼう し。  
神経芽細胞腫の

尿検査を受けましょう

内容品

- ろ紙
- ビニール袋
- スポイト
- 返信用封筒

9 0 0 □ □

60円  
切手

那覇市久茂地一丁目三十八

那覇保健所  
検査室行

(返信用)

乳児氏名		男・女
生年月日	昭和 年 月 日生	
保護者名 氏名		
住所		
電話	( )	
No.		

# 赤ちゃんが6か月になったら

## 神経芽細胞腫の尿検査を受けましょう

この検査は、神経芽細胞腫という小児がんを早くみつけるためのものです。

毎年、日本では、100人以上のこどもがこの病気にかかっています。生後12ヶ月までにみつけると、大部分のかたを治すことができます。

ただし、この検査でみつからないものもまれにはあり、また病気の性質上、この検査以降に発病する場合があります。

◎検査は無料です。

### 尿をとる時の注意

1. 赤ちゃんが生後6か月になったら、なるべく早い時期に、また、薬をのんでいないときにとって下さい。
2. 尿をとる前日から アイスクリーム、プリン、ケーキ、果物、ジュース類を与えないで下さい。
3. 尿にウンチがつき、とけてにじみますと、検査ができませんのでご注意下さい。  
もし、ろ紙がよごれたりしたときは、保健所または地域の保健婦駐在所までおこして下さい。

#### 尿のとり方

1. おしっこは、早朝尿が望ましいので夜ねる前におむつに脱脂綿をはきみ、尿を充分にしみこませて下さい。
2. 同封のスポイトで脱脂綿から尿を吸いとる。
3. ろ紙を○印の中心部に尿を一滴おとす。
4. ろ紙は汚さないように室温で乾かす。
5. ろ紙が乾いたら、記入欄にボールペンや鉛筆を用い記入事項をもらさず明記して下さい。



#### 郵送

- 封筒の表に住所、氏名等必要事項をはっきり書き入れてビニール袋(ろ紙を入れたもの)を同封し、60円切手をはってポストにすぐに投函してください。

#### 検査

#### 検査結果

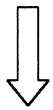
- 1か月たっても連絡がなければ今回の検査では異常がなかったということです。
- 再検査を必要とする場合は、1か月以内にお知らせいたします。

問い合わせは 那覇保健所看護課 電話 098-82-8408

保健婦駐在所 電話



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



沖縄県には、多くの離島があり、神経芽細胞腫マスキリングを実施するにあたって、離島における対処並びにその体制について検討することも一つの課題である。

そこで、今回は、那覇保健所管内の離島を中心にスキリングを実施した。